

## 令和5年度 第2回海老名市文化財保護審議会会議 次第

日 時 令和6年3月18日（月）  
14時30分～

会 場 こどもセンター201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

海老名市登録文化財（登録史跡）登録について（諮問、調査、答申） 資料1  
・三日月井戸  
・独鈷井戸

4 報告事項等

（1）郷土芸能「海老名の囃子」の調査について 資料2

（2）市内不動明王像等の調査について 資料3

（3）令和5年度事業実施結果概要 資料4

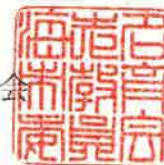
（4）その他

5 閉 会

海教総発第 101 号の 2  
令和 6 年 2 月 9 日

海老名市文化財保護審議会会長殿

海老名市教育委員会



海老名市登録文化財の登録について（諮問）

海老名市文化財保護条例（平成 31 年 3 月 28 日海老名市条例第 8 号）第 7 条に基づく海老名市登録文化財の登録について、同条例第 28 条第 3 項の規定に基づき、次のとおり諮問します。

記

1. 諮問事項

海老名市登録文化財の登録について

2. 諮問の理由

室町時代に再建された寺院ゆかりの井戸であり、弘法大師に関する昔話が伝えられている。市域に存する数少ない湧水で、地域の歴史を知るため貴重であり、保存及び活用のための措置が必要と認めるため。

3. 登録文化財の候補

- |           |       |
|-----------|-------|
| (1) 名 称   | 三日月井戸 |
| (2) 員 数   | 1 件   |
| (3) 区 分   | 登録史跡  |
| (4) 土地所有者 | 松樹俊弘  |

海老名市文化財保護審議会会長殿

海老名市教育委員会



海老名市登録文化財の登録について（諮問）

海老名市文化財保護条例（平成 31 年 3 月 28 日海老名市条例第 8 号）第 7 条に基づく海老名市登録文化財の登録について、同条例第 28 条第 3 項の規定に基づき、次のとおり諮問します。

記

1. 諮問事項

海老名市登録文化財の登録について

2. 諮問の理由

寺院山門脇にある井戸であり、昭和 30 年頃まで近隣住民の生活用水として利用されていた。また弘法大師に関する昔話が伝えられている。地域に存する数少ない湧水で、地域の歴史を知るため貴重であり、保存及び活用のための措置が必要と認めるため。

3. 登録文化財の候補

- |           |      |
|-----------|------|
| (1) 名 称   | 独鈷井戸 |
| (2) 員 数   | 1 件  |
| (3) 区 分   | 登録史跡 |
| (4) 土地所有者 | 海老名市 |

名称： 三日月井戸（みかづきいど）  
区分： 登録史跡  
所在地： 海老名市上今泉四丁目 841 番 1 の一部  
員数： 1  
面積： 396 m<sup>2</sup>のうちの一部  
所有者： 松樹俊弘  
時代： 室町時代～昭和 30 年代

説明：三日月井戸は、常泉院（上今泉四丁目 3 番 1 号）の敷地内にある湧水池である。東側は崖となっており、周囲は半月状に石積みで囲まれ、コンクリートで井戸状に構築されている。通常時で水深は 0.7～0.8m を測る。水位は大雨の際には上昇するが、1 年を通じて保たれており、枯れることはない。

天文 19（1550）年に再建された常泉院は、「境内深谷中より清泉常に湧出するを以寺号を得たり」（『新編相模国風土記稿』）とされており、本井戸が寺号の由来になったものとみられている。上水道敷設以前は寺院の生活用水として利用されていた。

別名「法師様の井戸」と呼ばれ、弘法大師が杖で地面をたたいたところ泉がわいたという伝説がある。

市域に存する数少ない湧水で、環境省の「湧水保全ポータルサイト」により神奈川県のおすすめ湧水の一つとして紹介されている。



三日月井戸（南から）

名称： 独鈷井戸（どうこいど・どっこいど）  
区分： 登録史跡  
所在地： 海老名市上今泉四丁目 847 番 4 の一部  
員数： 1  
面積： 24.79 m<sup>2</sup>  
所有者： 海老名市  
時代： 近世～昭和 30 年代

説明：独鈷井戸は、常泉院（上今泉四丁目 3 番 1 号）の山門脇にある湧水池である。周囲は石積みで囲まれており、北東側は崖状に高く、南西側には独鈷井戸に向かう道があった。通常時の水深は 0.4～0.5m であるが、安全のため埋め戻されており、以前は現在より深かった。水位は大雨の際には上昇するが、1 年を通じて保たれており、枯れることはない。

昭和 30 年頃までは近隣民家の生活用水として利用され、やや離れた 3 戸では竹を継ぎ、簡易水道としていた。

独鈷井戸は地元では「どうこいど」と呼ばれ、三日月井戸と同様に弘法大師が杖で地面をついたところ水がわいたという伝説がある。

市域に存する数少ない湧水で、環境省の「湧水保全ポータルサイト」により神奈川県 の 代 表 的 な 湧 水 の 一 つ と し て 紹 介 さ れ て い る。



独鈷井戸（南西から）

## 調査書

名称： 三日月井戸（みかづきいど）  
区分： 登録史跡  
所在地： 海老名市上今泉四丁目 841 番 1 の一部  
員数： 1  
面積： 14.40 m<sup>2</sup>  
所有者： 松樹俊弘  
時代： 室町時代～昭和 30 年代

三日月井戸は、常泉院境内地脇にある湧水である。現況は周囲を半月状の石積みで囲まれ、コンクリートにより井戸枠が構築されている。水位は大雨の際には上昇するが、1年を通じて保たれている。市域に現存する数少ない湧水であり、周辺の相模野台地中津原面上には本井戸と独鈷井戸の他に湧水は見られない状況である。

本井戸に関連する記録としては、『新編相模国風土記稿』の高座郡上今泉村の項に、天文19年常泉院が寺号を改めた際「境内深谷中より清泉常に湧出するを以寺号を得たり」とあり、万治2（1659）年編纂とされる『鷹倉社寺考』にも同様の記載がある。常泉院の前身寺院は文治年間に開かれた今泉山福泉寺とされ、その名称も泉に由来することがうかがえる。これらの山号、寺号は本井戸又は独鈷井戸の湧水が由来と考えられる。

また明治12年11月の皇国地誌稿本「上今泉村村誌」においても、常泉院境内の「谷間ヨリ一水発ス、之ヲ常泉或ハ泉川ト称」し、「其流ニ因テ水田ヲ開墾セシヲ以テ今泉村ト名ク」と記されている。

このほか明治13年常泉院山門南側に設立の今泉学校に通った萩原静夫氏（明治42年生）は『海老名村郷土年表附記今泉学校』で本井戸は寺院の生活用水、独鈷井戸は近隣住民や学校での生活用水として利用されていたと記している。また昭和19～20年に横須賀市浦郷国民学校が常泉院に学童疎開で滞在した際の教員の記憶として、「裏の泉」の水を炊事洗濯に利用したとの記録があり、近代における井戸の利用状況を知ることができる。

神奈川県温泉地学研究所実施の水質等調査では、本井戸は座間丘陵と中津川段丘面境の段丘崖下部から湧出する崖線湧水で、水質の分析から浅層地下水の特徴を示しているとの結果を得た。しかしながら陽イオン成分や微量成分においてマグネシウム比や鉄、マンガン濃度が高く、地表からの浸透の影響を受ける陰イオンの組成も、近隣比較対象地点（海老名市亀島湧水、座間市大下湧水）とは異なり、独鈷井戸とも異なる水質組成比である結果が得られている。この理由については局所的な地質の影響、若しくは井戸内の滞留中に生じた影響がある可能性もあるとの見解を得ている。

民俗学的な観点からでは、当井戸の弘法大師伝説について確認したが、残念ながら昭和50年代以前に記されたものは確認できず、比較記新しい「昔話」である可能性がある。しかしながら全国的に弘法伝説のある湧水はその水質成分が周辺の湧水などと異なる特徴を持つ水である事例もあり、本井戸についてもその特徴を備えている可能性はある。

本井戸は、現時点で発掘調査は実施しておらず、考古学的な所見は得られてはいないので、市域に現存する数少ない湧水である。また室町時代に再建された寺院のゆかりを示すとともに、「今泉」の地名の由来となった湧水と考えられる。当地の歴史や文化を理解する上で貴重な遺構として登録し、保存活用すべきものである。

## 調査書

名称： 独鈷井戸（どうこいど・どっこいど）  
区分： 登録史跡  
所在地： 海老名市上今泉四丁目 847 番 4 の一部  
員数： 1  
面積： 24.79 m<sup>2</sup>  
所有者： 海老名市  
時代： 江戸時代～昭和 30 年代

独鈷井戸は、常泉院の山門脇にある湧水である。現況は周囲を石積みで囲まれており、北東側は崖状に高く、南西側は比較的平坦に石が敷かれている。あふれた水は南側の U 字溝に流れ、細い水路に通じ、南側には井戸への往来に使用された道がある。通常時の水深は 0.4～0.5m であるが、安全のため埋め戻されており、以前は現在より深かった。水位は大雨の際には上昇するが、1 年を通じて保たれている。市域に存する数少ない湧水であり、本井戸と三日月井戸の他に周辺の相模野台地中津原面上に湧水はみられない。

本井戸に関連する記録としては、『新編相模国風土記稿』の高座郡上今泉村の項に、天文 19 年常泉院が寺号を改めた際「境内深谷中より清泉常に湧出するを以寺号を得たり」とあり、万治 2（1659）年編纂とされる『鷹倉社寺考』にも同様の記載がある。常泉院の前身寺院は文治年間に開かれた今泉山福泉寺とされ、その名称も泉に由来することがうかがえる。これらの山号、寺号は本井戸又は三日月井戸の湧水が由来と考えられる。

また明治 12 年 11 月の皇国地誌稿本「上今泉村村誌」においても、常泉院境内の「谷間ヨリ一水発ス、之ヲ常泉或ハ泉川ト称」し、「其流ニ因テ水田ヲ開墾セシヲ以テ今泉村ト名ク」と記される。明治 13 年頃作成の旧公図には本井戸とその流れとみられる水路が記され、図からも少なくとも近世までさかのぼる井戸であると判断される。昭和 30 年頃までは近隣住民により生活用水として利用され、昭和 19～20 年に横須賀市浦郷国民学校が常泉院に学童疎開で滞在した際の教員の記憶として、「裏の泉」の水を炊事洗濯に利用したとの記録がある。

神奈川県温泉地学研究所実施の水質等調査では、独鈷井戸は座間丘陵と中津川段丘面境の段丘崖下部湧出する崖線湧水で、水質の分析から浅層地下水の特徴を示す結果が得られている。近隣の比較対象地点（海老名市亀島湧水、座間市大下湧水）と陽イオン成分は類似しているものの陰イオン組成比がやや異なることから、異なる地表からの涵養の影響を受け湧出していると推察されている。

平成 4 年の民俗調査で、本井戸は地元で昭和初期には「どうこいど」と呼ばれていたと記録している。三日月井戸と同様に弘法大師にかかる昔話は、昭和 50 年代以前の記録は確認できておらず、比較的新しい「昔話」である可能性がある。しかしながら全国的に弘法伝説のある湧水はその水質成分が周辺の湧水などと異なる特徴を持つ水である事例もあり、本井戸についてもその特徴を備えている可能性はある。

本井戸についても発掘調査は実施しておらず、考古学的な所見はないものの、市域に存する数少ない湧水であり、少なくとも近世から近隣住民に利用され、「今泉」の地名の由来となった湧水であると考えられる。当地の歴史や文化を理解する上で貴重な遺構として登録し、保存活用すべきものである。

【参考文献】

- 蘆田伊人 『新編相模国風土記稿』 雄山閣 1980
- 海老名古文書研究会 『鷹倉社寺考』 2003
- 海老名市 『海老名市史』 4 資料編近代 2002
- 海老名市教育委員会 「鷹倉社寺考（三）」 『海老名市文化財資料集』 第3 1975
- 浦郷国民学校昭和 20 年卒業同期会 『思い出の学童疎開』 1978
- 萩原静夫編 『海老名村郷土年表 附記今泉学校』 1984
- 海老名市秘書広報課 「常泉院の三日月井戸」 『海老名むかしばなし』 1981
- 池田武治 「独鈷の井戸」 『海老名むかしばなし』 第5集 海老名市広報広聴課 1990
- 河野 忠 『弘法水の事典 日本各地に伝わる空海ゆかりの水』 2021
- 常泉院建築委員会 『常泉院建築事業記念誌』 1982

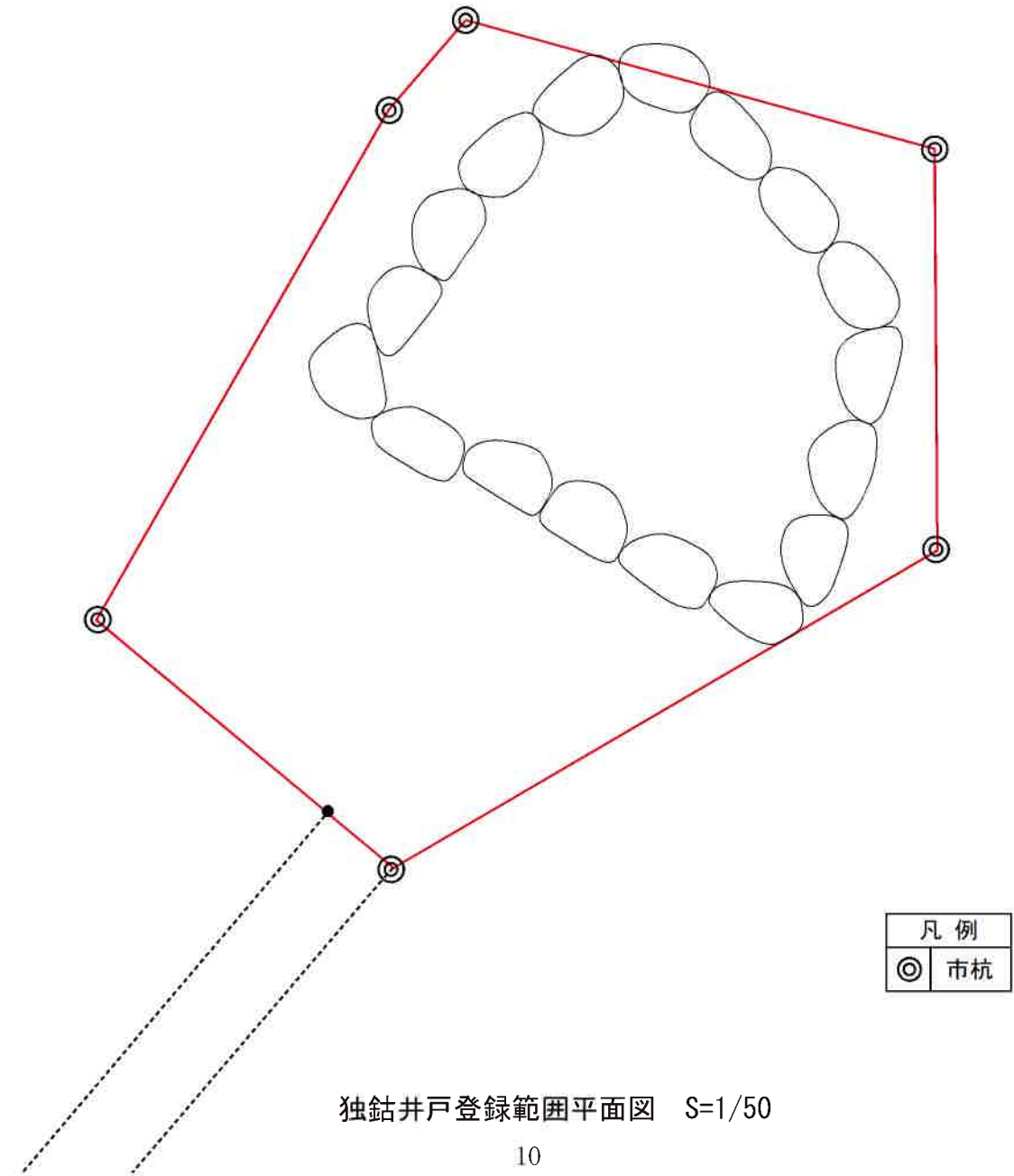


施設情報

中心地 | 海老名市上今泉4丁目 付近

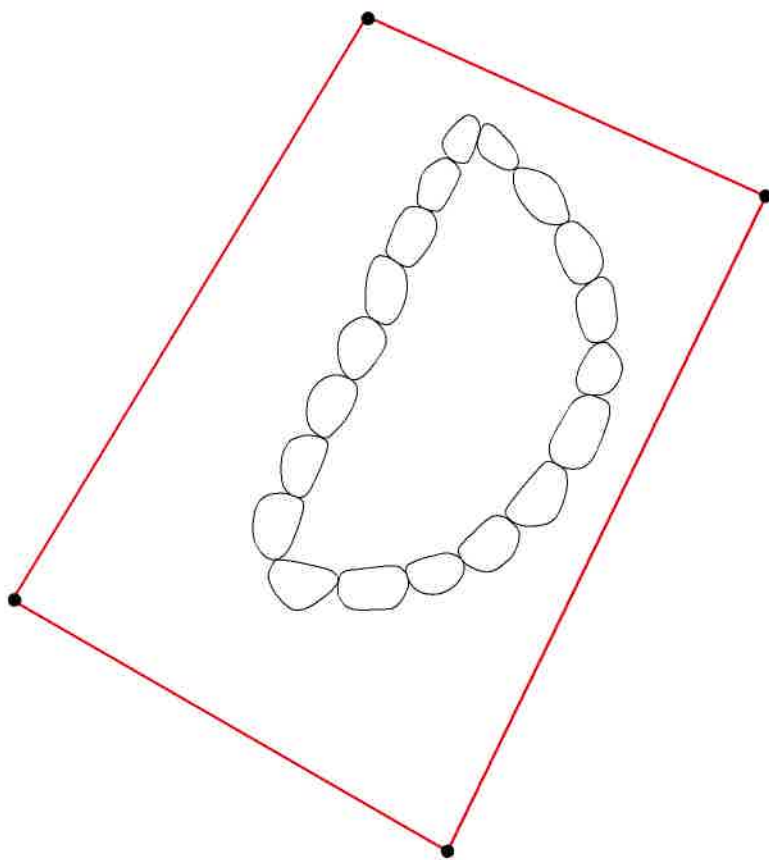




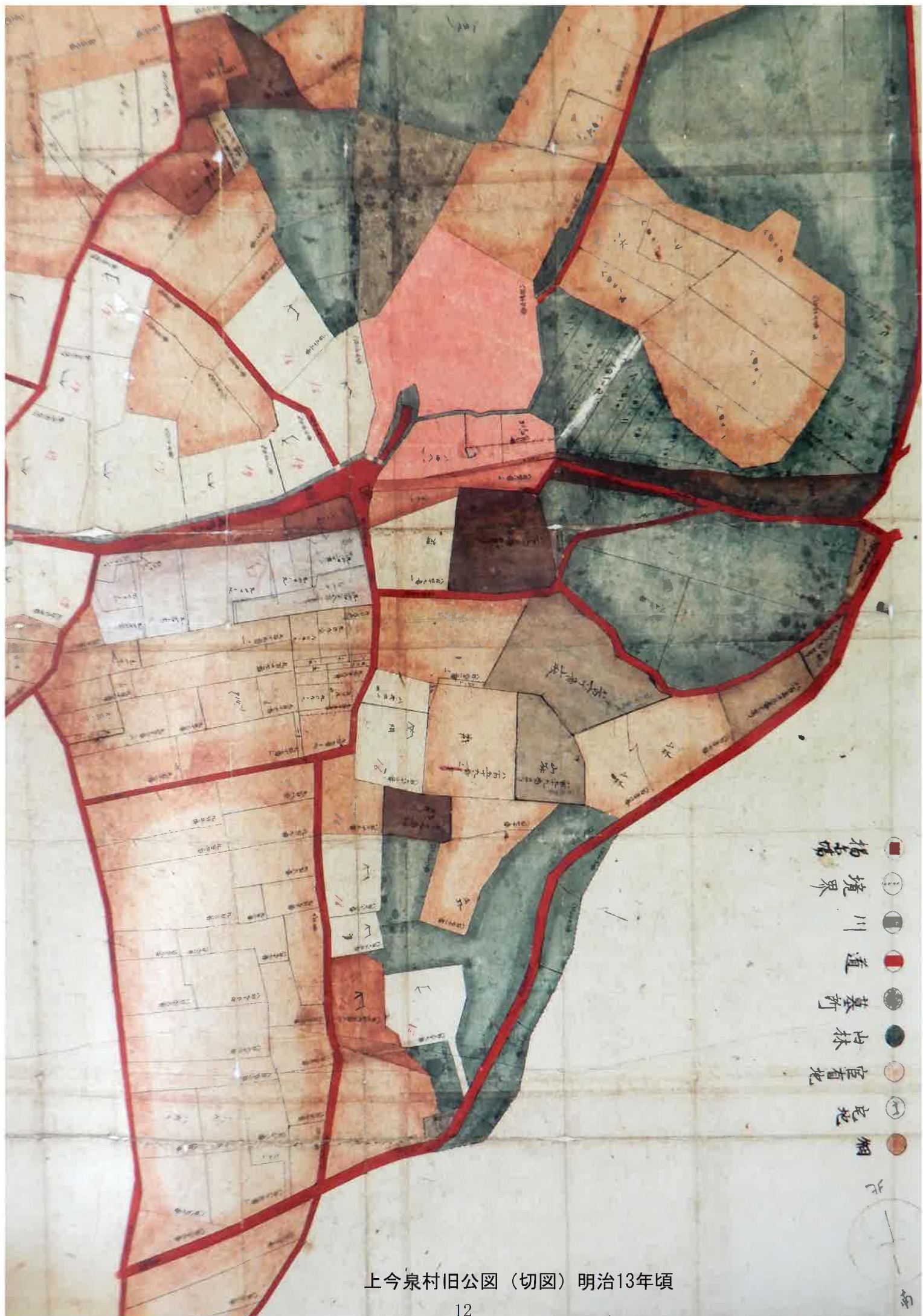


凡例	
◎	市杭

独鈎井戸登録範囲平面図 S=1/50



三日月井戸登録範囲平面図 S=1/50



上今泉村旧公図（切図）明治13年頃

○常泉院 金龍山と號す、曹洞宗 愛甲郡七澤村 廣澤寺末 當寺は往

昔密僧白翁一寺を建て、今泉山福泉寺と號す 今も山内

福泉峰と 呼ぶ、其後廢絶せしを、天文十九年本寺第三世勇安更

に法燈を挑け今の山寺號に改む 境内深谷中より清泉常に湧出するを以、寺號を得

た 本尊虚空藏を安ず、寺領七石は慶安九年九月十七日

御朱印を賜ふ、△天神白山合社 △山神社 △秋葉社

△鐘樓 鐘に寶永七年の銘あり、○西光寺 明谷山と

號す 前寺末 貞享元年本寺第三世僧智翁建立す、本尊釋迦

を安ず、○經藏院 日照山安養寺と號す、本山修驗

小田原玉瀧坊配下 相傳へて古此所に梅元坊と云驗者あり、國分

村内日月明神の別當たりしが、梅元死後廢絶す 日月明神社棟

札に正治元年志主廣綱、大小百 夫より足利の時世に至り、

貞觀法印と云もの 貞觀が十三世の祖は、鎌倉 鎌倉上之村

に住せしが貞治の頃鎌倉を去り、諸國を遊行して此地

に來り、梅元が古蹟を再興し、日月山經塚院櫻井梅之

坊と號す 貞觀は正長元年十月七日卒 後數世を歴て延寶年間、又改て今

の山寺號となれりと云ふ、護摩堂に不動を安ず、△塚

梅元坊と呼ぶ、○地藏堂二、常泉院持、

泉寺 金龍山ト号ス。曹洞宗。七沢露柏庵広沢寺末。昔、密

宗ノ沙弥ニ白翁某ト云フ者アリ。諸國ヲ歴訪シ仏果ヲ説ク

偶々コノ地ニ遊歴シ東山ヲ拝スルニ紫雲止ル処アリ。思議

シ一草庵ヲ建テ朝夕ニ拝スルニ、陽西ニカタク刻、黄金

ノ光彩ヲ拝ス。白翁其ノ光ヲ求メ山中ニ入ルニ神泉アリ口

ヲ漱ギ心淨ムルニ心軀爽ナリテ一条ノ光ヲ視ル。

白翁ソノ塚ヲ開キテ金龍ヲ彫ス一面ノ神鏡ヲ得タリ。仍チ

其ノ地ヲトシ一字ヲ建ツ。今泉山金龍院福泉寺トナス。

今、山内ノ靈峯ヲ秋葉山福泉峯ト呼ブ。其ノ後幾度ノ兵

災ニアヒテ廢絶ス。天文五年道元ノ徒弟勇安禪師法燈ヲ統

ギ今ノ山号ニ改ム。旧院号ヲ以テ山号トナス。マタ境内ノ

深泉ヨリ常ニ靈水湧キテ田野ヲ潤ス。依リテ寺号トナス。

俚人マタ伝ヘテ曰ク。禪師アリシ日ニ金色ノ龍、雲ヲ呼

ビテ天ニ昇ルヲ夢ニ見、ヨリテ山号ヲ金龍山ト改ムト。本

尊虚空藏菩薩ヲ安ズ。永祿八年北条上総介寺領十貫文。慶

安九年九月十七日寺領七石ノ御朱印ヲ賜フ。

〔表紙〕

地誌編纂記

〔冊〕

皇國地誌

村誌

相模國高座郡上今泉村

往古ヨリ本郡有鹿郷ニ屬ス、横山ノ西溪ニ発スル一水ヲ泉川或ハ常泉ト云フ、其流ニ因テ水田ヲ開墾セシヲ以テ今泉村ト名ク、漸々田畑開ケ人戸蕃殖スルヨリ、正保二年乙酉三月旗川ヲ分界トシテ上下兩村トナル、是ヨリ上今泉村ト称ス、旧渋谷庄タリ、冠称ヲ廢シテ現今ハ単ニ村名ヲ用ケル

〔中略〕

寺

常泉院 境内東西三十間南北三十六間面積千八坪中央ノ稍東北字谷戸ニアリ、愛甲郡七沢村曹洞宗広沢寺ノ末派ニ屬ス、文治中僧白翁之ヲ開立シ今泉山福泉寺ト号シ真言宗タリ、境内ニ一峯アリ福泉寺峯ト唱ヒ其谷間ヨリ一水発ス、之ヲ常泉或ハ泉川ト称ス、漸々衰微セシヲ天文十九年庚戌広沢寺<sup>三世</sup>僧勇安來テ之ヲ中興更建シ、金龍山常泉院ト改称シ宗ヲ曹洞ニ改ム、慶安元年戊子九月十七日旧ヲ襲テ徳川家光本村地七石ヲ寄附ス

## 海老名市上今泉所在「独鈷井戸」湧水及び周辺湧水について

神奈川県温泉地学研究所

### 1. 地形・地質について

海老名市上今泉に所在する独鈷井戸は、常泉院（同市上今泉 4 丁目 3-1）の山門脇にある湧水池である。常泉院敷地標高は概ね 50m 前後であり、座間丘陵（標高 60～80m 程度）と、当該地域西側に広がる相模原台地中津原面（標高 40～45m 程度）の境界部にあたる座間丘陵内の段丘崖下部に位置しており、地形区分において傾斜 3～15°の多摩段丘面群に区分されている。

一方、当該地域周辺の座間丘陵部分及び相模原台地中津原面部分に河川はなく、座間丘陵の東側では、相模原台地部分を北東から南西方向に相模川水系目久尻川が流下している。また、座間丘陵及び相模原台地中津原面の西側では、相模原台地中津原面側から相模川水系鳩川が、その更に西側では相模川が、それぞれ概ね南方向に流下している。また自然河川ではないが、鳩川の東側を相模川左岸用水が南方向に流下している。

当該地域周辺の表層地質は火山灰層（軽石・スコリア層を挟む）からなり、地層は武蔵野ローム層と相模層群多摩ローム層に区分される。ローム層の基底面は、南方向にほぼ一様に傾斜している。当該地域におけるローム層基底面の標高は 14～16m 程度であり、地表面標高が 55m 前後であることから、ローム層の厚さは 40m 程度であるとみられる<sup>\*1,\*2</sup>。

### 2. 地下水の流動方向について

既存資料<sup>\*3</sup>のデータを用いて、海老名市上今泉周辺における浅層地下水流動図（図 1）を作成した。図中の赤色の実線は浅層地下水位等値線（数値は標高(m))、オレンジ色矢印は地下水位の分布を元に算出した各矢印地点における浅層地下水の流動方向、青色丸印は地下水位等高線を作成する際に用いたデータ地点、青太線は河川（東側より目久尻川及び鳩川）をそれぞれ示している。なお、図の背景には、国土地理院 1/25000 地形図と、国土地理院基盤地図情報 5m メッシュ（標高）データを用いて作成した陰影段彩図<sup>\*注</sup>を重ね合わせた図を用いた（\*注：影と高さ毎に異なる色を付け、地形を立体的に表現した図）。

図 1 における地下水位標高は概ね 22.5～52.5m の範囲にあり、地下水位等高線は図 1 中央の座間丘陵部で地下水面の尾根にあたる下向きに凸の形状、目久尻川沿いに地下水面の谷にあたる上向きに凸の形状を示していた。こうした特徴から、広域的には座間丘陵から東西の相模原台地及び目久尻川沿いの低地方向に地下水が流下



していると推察される。

なお、図1に示した地下水位等高線を作成するにあたっては、データ地点（青色丸印）が座間丘陵内に1地点、相模原台地内に数地点しかなく、十分な地点数が得られなかった。このため、局所的な地形の傾斜方向と地下水位等高線の傾きが一致しない範囲が見られるなど、図1により詳細な地下水流動方向を把握するには限界があると考えられる。

湧水の採水と現地調査は、図1に黄色丸印で示した4地点で2023年2月20日に行った。このうち、独鈷井戸（写真1-1）及び三日月井戸（写真1-2）の二地点が常泉院敷地内等にある湧水池であり、座間丘陵と西側の相模原台地中津原面を境する段丘崖下部に湧出する崖線湧水であった。それぞれの湧水地点における水面標高は、GPSを用いたキネマティック法及び水準測量により測定し、北東側にある三日月井戸で47.58m、南西側にある独鈷井戸で45.09mであった。2地点間の水面標高の差は約2.5mで、水平距離はおよそ63mであったことから、二地点間の動水勾配は0.04であり、崖線部付近における地下水の流動速度は台地部や低地部と比べて極めて大きいものと推定される。

一方、亀島自然公園湧水（写真1-3）は座間丘陵から、大下湧水（写真1-4）は相模原台地からそれぞれ目久尻川沿いの低地に湧出する崖線湧水であった。

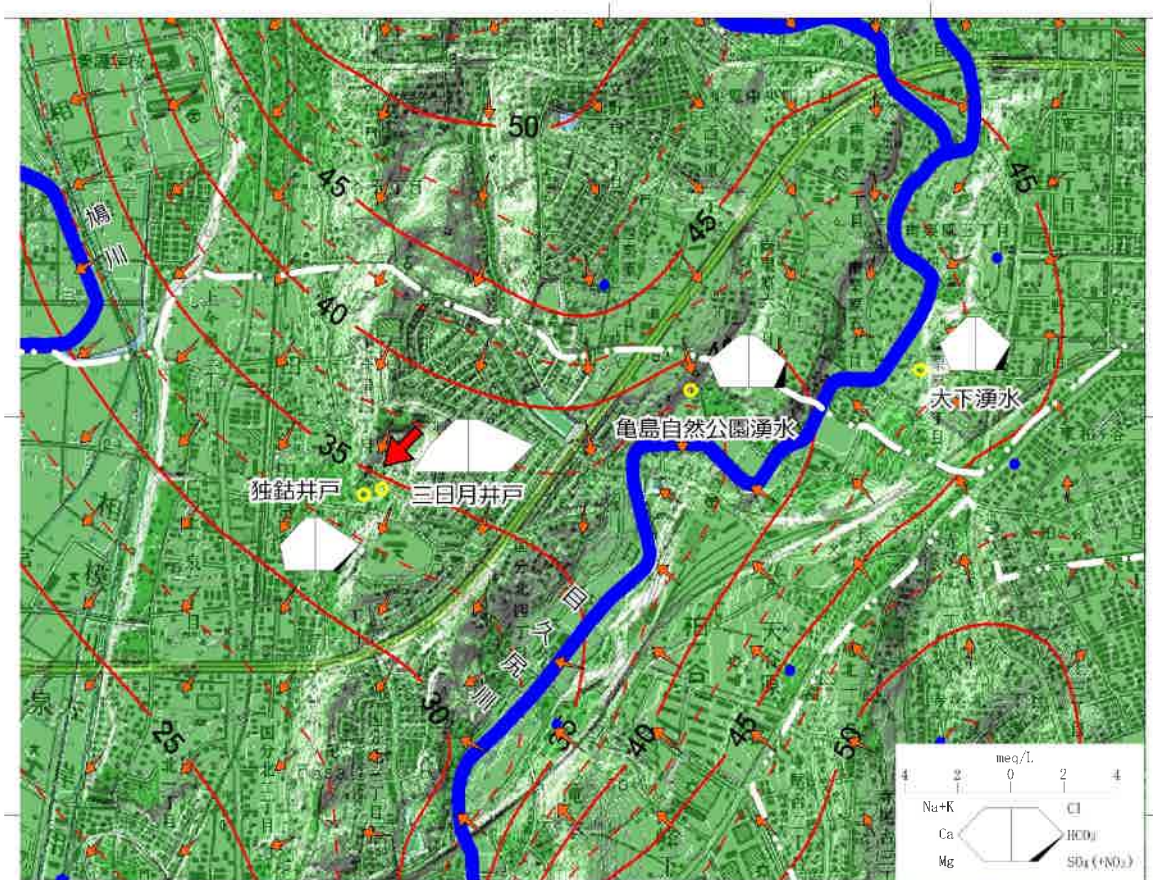


図1 海老名市上今泉における地下水流動図及び湧水水質のヘキサダイアグラム



写真 1-1 独鈷井戸



写真 1-2 三日月井戸



写真 1-3 亀島自然公園湧水



写真 1-4 大下湧水

### 3. 湧水の水質について

採水した4地点の現地測定項目及び主要溶存成分、並びに微量成分の分析結果を表1に示した。また主要溶存成分（ナトリウムイオン( $\text{Na}^+$ )、カリウムイオン( $\text{K}^+$ )、カルシウムイオン( $\text{Ca}^{2+}$ )、マグネシウムイオン( $\text{Mg}^{2+}$ )、塩化物イオン( $\text{Cl}^-$ )、重炭酸イオン( $\text{HCO}_3^-$ )、硫酸イオン( $\text{SO}_4^{2-}$ )、硝酸イオン( $\text{NO}_3^-$ )）の分析結果をもとに、ヘキサダイアグラム<sup>注釈1</sup>を作成し、図1の各採水地点に隣接してプロットした。

図1中に示した湧水のヘキサダイアグラムでは、4地点中三日月井戸を除く3地点が、六角形の形が左右ともに中央の軸(カルシウム及び、重炭酸イオン)が最も濃度が高い、ソロバンの玉の形をしていた。一方、三日月井戸は陽イオン側(左側)が一番下の軸(マグネシウムイオン)が最も大きな形を示していた。

また、これら4地点における湧水の主要溶存成分組成比を、トリリニヤダイアグラム<sup>注釈2</sup>上にプロットしたものが図2である。

図2に示したトリリニヤダイアグラムでは、4地点中、3地点(独鈷井戸、三日月井戸、大下湧水)が浅層地下水の特徴を示す領域Ⅰ、1地点(亀島自然公園湧水)が領域Ⅰと地表付近からの汚染等の特徴を示す領域Ⅲの中間的性質を示す領域Ⅴにプロットされ、全体ではほぼ一直線上にプロットされていた。

また、陽イオン成分の三角ダイアグラム(図2左下)では、大下湧水と亀島自然公園湧水のプロットがほとんど重なっており、わずかに大下湧水の方が( $\text{Na}^+ + \text{K}^+$ )比が大きかった。一方、独鈷井戸及び三日月井戸は近接しているものの、独鈷井戸は大下湧水や亀島自然公園湧水の近くにプロットされるのに対して、三日月井戸のマグネシウム比は、他の3湧水と比べて高い値を示していた。更に三日月井戸については、微量成分である鉄とマンガン濃度も高く、採水時に鉄もしくはマンガンとみられる茶色の沈殿が池内に生じていた。これらのことから、三日月井戸の水質については、局所的な地質の影響、もしくは池内における滞留中による影響を受けている可能性などが考えられる。

一方、陰イオン成分の三角ダイアグラム(図2右下)についてみると、陽イオン組成比が類似していた大下湧水と亀島公園湧水は近い場所にプロットされており、陰イオン組成比も類似していた。しかし、独鈷井戸と三日月井戸については比較的離れた場所にプロットされており、大下湧水及び亀島自然公園湧水とも離れてプロットされた。

これらのことから、調査した4地点における湧水の水質については、三日月井戸を除く3地点(独鈷井戸・大下湧水・亀島自然公園湧水)では、浅層地下水の特徴を持つ領域Ⅰもしくは領域Ⅰに隣接する領域Ⅴにプロットされ、陽イオン組成比が類似していた。陽イオン成分は地質の影響を受けると考えられることから、これらの湧水は同様の地質である地層内を流動した浅層地下水が湧出している可能性が考えられる。

表 1 湧水水質分析結果

湧水名	採取日時	水面標高 (m)	水温 (°C)	pH	E.C. ( $\mu\text{S}/\text{cm}$ )	$\text{Na}^+$ (mg/L)	$\text{K}^+$ (mg/L)	$\text{Mg}^{2+}$ (mg/L)	$\text{Ca}^{2+}$ (mg/L)	硬度 (mg/L)
独鈷井戸	2023/2/20 10:43	45.09	13.4	6.98	235	8.80	0.40	13.90	26.90	124
三日月井戸	2023/2/20 11:20	47.58	11.0	7.62	348	10.42	0.35	25.41	29.15	177
大下湧水	2023/2/20 14:00		17.4	7.25	249	7.03	0.70	11.40	26.90	114
亀島自然公園湧水	2023/2/20 13:05		17.6	7.10	270	7.81	0.60	13.50	30.80	132

湧水名	採取日時	DO (mg/L)	$\text{Cl}^-$ (mg/L)	$\text{NO}_3^-$ (mg/L)	$\text{SO}_4^{2-}$ (mg/L)	$\text{HCO}_3^-$ (mg/L)	Fe (mg/L)	Mn (mg/L)	$\text{H}_2\text{SiO}_3$ (mg/L)	$\text{HBO}_2$ (mg/L)
独鈷井戸	2023/2/20 10:43	3.36	7.08	13.10	31.40	103.0	0.09	0.04	53.34	0.09
三日月井戸	2023/2/20 11:20	0.69	13.27	ND	71.52	152.9	1.38	3.59	40.48	0.06
大下湧水	2023/2/20 14:00	7.34	8.10	20.60	34.30	82.7	ND	ND	67.60	0.10
亀島自然公園湧水	2023/2/20 13:05	5.42	8.20	24.10	45.90	86.3	ND	ND	63.60	0.10

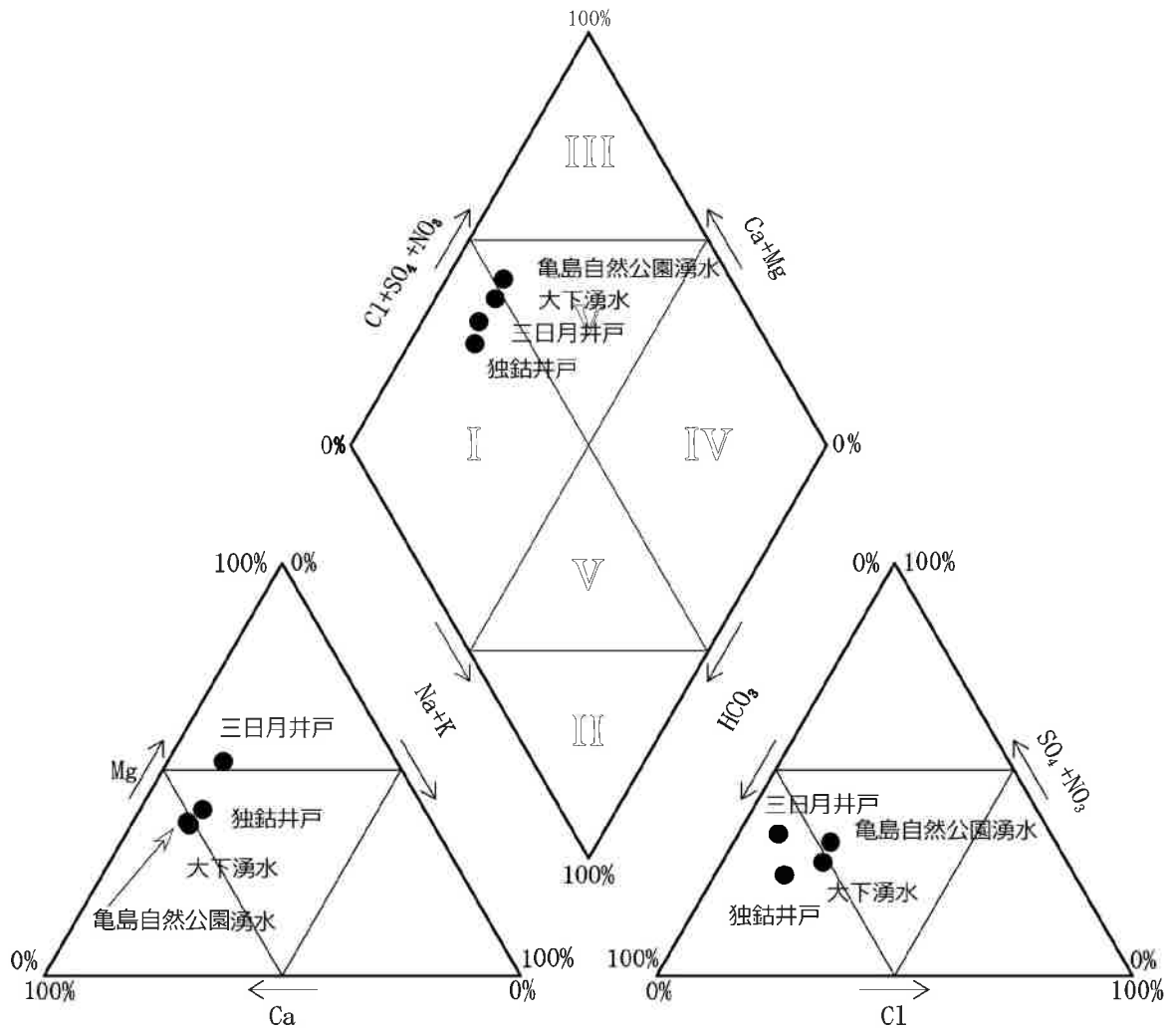


図 2 湧水水質のトリリニヤダイアグラム

一方、塩化物イオンや硝酸イオンなど、主に地表からの浸透の影響を受ける陰イオンの組成が異なっていたことから、これら3地点に湧出する地下水が、それぞれ異なる地表から涵養の影響を受けている可能性が考えられる。三日月井戸の水質については、他の3湧水と同様に浅層地下水の特徴を示すものの、陽イオン成分や微量成分において、他の地点と異なる水質組成比を示していたことから、局所的な地質の影響、もしくは池内における滞留中に生じた影響などの可能性などが推察された。

#### 4. まとめ

既存資料及び、現地にて採取した湧水試料の分析結果を用いて、独鈷井戸及び周辺地域における湧水の特徴について検討を行った。

当該地域周辺の広域的な地下水の流動は、座間丘陵から東西の相模原台地及び目久尻川沿いの低地方向に地下水が流下し、常泉院敷地内にある湧水地である独鈷井戸及び三日月井戸は、座間丘陵と西側の相模原台地中津原面に接する段丘崖下部に湧出する崖線湧水であった。また、二つの湧水地の水面標高差から得られた地下水面の動水勾配は0.01と計測され、台地部や低地部と比べて極めて大きい結果が得られた。

主要溶存成分及び微量成分の分析結果より、独鈷井戸に湧出する湧水の水質は、浅層地下水の特徴を持ち、陽イオン組成が類似していたことから、大下湧水及び亀島自然公園湧水と、同様の地質である地層内を流動している可能性が考えられる。一方、これら3湧水では陰イオン組成比が異なることから、異なる地表から涵養の影響を受けた浅層地下水が湧出していると推察された。

一方、三日月井戸については、他の3湧水とは異なる水質組成比を示していたことから、局所的な地質の影響、もしくは池内における滞留中による影響などを受けている可能性などが示唆された。

引用文献 ※1 神奈川県(1986):土地分類基本調査「藤沢・平塚」(5万分の1)国土調査, 地形分類図

引用文献 ※2 神奈川県(1986):土地分類基本調査「藤沢・平塚」(5万分の1)国土調査, 表層地質図

引用文献 ※3 温泉地学研究所(1994):神奈川県地下水位分布図

#### 注釈 1

ヘキサダイアグラムは地下水中に溶存する主要 8 成分(陽イオン 4 成分(ナトリウムイオン; $\text{Na}^+$ , カリウムイオン; $\text{K}^+$ , カルシウムイオン; $\text{Ca}^{2+}$ , マグネシウムイオン; $\text{Mg}^{2+}$ )・陰イオン 4 成分(塩化物イオン; $\text{Cl}^-$ , 重炭酸イオン; $\text{HCO}_3^-$ , 硫酸イオン; $\text{SO}_4^{2-}$ , 硝酸イオン; $\text{NO}_3^-$ )の当量濃度(meq/l)を、中心軸から左(陽イオン)及び、右(陰イオン)方向に伸ばした 3 本の水平軸上にプロットした点を結んで作成した六角形の図形である。

#### 注釈 2

トリリニヤダイアグラムは、陽イオン組成 2 組 ( $\text{Na}^+\text{+K}^+$ と  $\text{Ca}^{2+}\text{+Mg}^{2+}$ ) と陰イオン組成 2 組 ( $\text{Cl}^-+\text{SO}_4^{2-}+\text{NO}_3^-$ と  $\text{HCO}_3^-$ ) の当量百分率を菱形の各辺の軸にプロットした中央のキーダイアグラムと、左下に陽イオン組成 3 組 ( $\text{Na}^+\text{+K}^+$ と  $\text{Ca}^{2+}$ と  $\text{Mg}^{2+}$ ) 及び、右下に陰イオン組成 3 組 ( $\text{Cl}^-$ と  $\text{SO}_4^{2-}+\text{NO}_3^-$ と  $\text{HCO}_3^-$ ) の当量百分率を三角形の各辺の軸にプロットした二つの三角ダイアグラムを組み合わせたものである。

また菱形のキーダイアグラムは、図の内部を 50%の線で区切ることで図 2 中に白抜きローマ数字で記載されている I ~ V の領域に区分でき、それぞれ、

I : アルカリ土類炭酸塩 ( $\text{Ca}(\text{HCO}_3)_2$ 型;重炭酸カルシウム型)

II : アルカリ炭酸塩 ( $\text{NaHCO}_3$ 型;重炭酸ナトリウム型)

III : アルカリ土類非炭酸塩 ( $\text{CaSO}_4$ 又は $\text{CaCl}_2$ 型;非重炭酸カルシウム型)

IV : アルカリ非炭酸塩 ( $\text{Na}_2\text{SO}_4$ 又は $\text{NaCl}$ 型;非重炭酸ナトリウム型)

V : 中間型

と称されている。

一般的に、浅井戸などにおける自由地下水は領域 I の重炭酸カルシウム型に分布し、深井戸などの被圧地下水では領域 II の重炭酸ナトリウム型に分布することが知られている。一方、火山性の地下水や汚染された地下水などは領域 III の非重炭酸カルシウム型にプロットされ、海水などは領域 IV の非重炭酸ナトリウム型にプロットされることが知られている。

## 海老名市域の囃子の調査について

### 調査目的

海老名市域「囃子」重要無形民俗文化財指定等にむけた調査

### 現 状

現在、市教育委員会指定郷土芸能として「柏ヶ谷はやし保存会」「国分囃子保存会」が指定されているが、海老名市はやし保存連絡協議会（17団体）より市域の囃子全体を重要無形民俗文化財に指定できないか相談を受けている。

### これまでの調査

平成13年(別添えびな囃子ガイドブック等作成時)、平成15年(神奈川県民俗芸能緊急調査)

### 調査方法・内容

#### 【調査方法】

- ・「祭囃子」調査票にて団体への聞き取り：過去の調査票を基に聞き取り等、資料収集を行う。
- ・団体比較の参考資料として「屋台」の採譜を予定(各団体の伝承経路の参考資料とする。)

#### 【祭囃子調査項目】

- ・団体名
- ・所在地、代表者名
- ・主な演奏の機会と時期、演奏場所
- ・由来・歴史
- ・現在への伝承経路：今の囃子を誰から、もしくはどこから習ったか
- ・伝承者とその現状：現在の会員数
- ・伝承曲目：かつて演奏していた曲目、現在演奏していた曲目
- ・演奏様式及び技法：演奏順、途中でいれる技法など
- ・流派
- ・付属芸能：踊りが伴うようであれば、どの曲にどんな踊りが伴うのか
- ・楽器構成：楽器配置、楽器の名称・種類・数・修理先
- ・楽譜（口文句・口唱歌）
- ・記録・資料
- ・現状への意見と将来への展望

### 今後の予定

令和6年度調査、進捗状況により指定に向けた審議等

### 調査指導

高久舞氏（帝京大学文学部日本文化学科講師 民俗学）

えびな



# お雑子ガイドブック



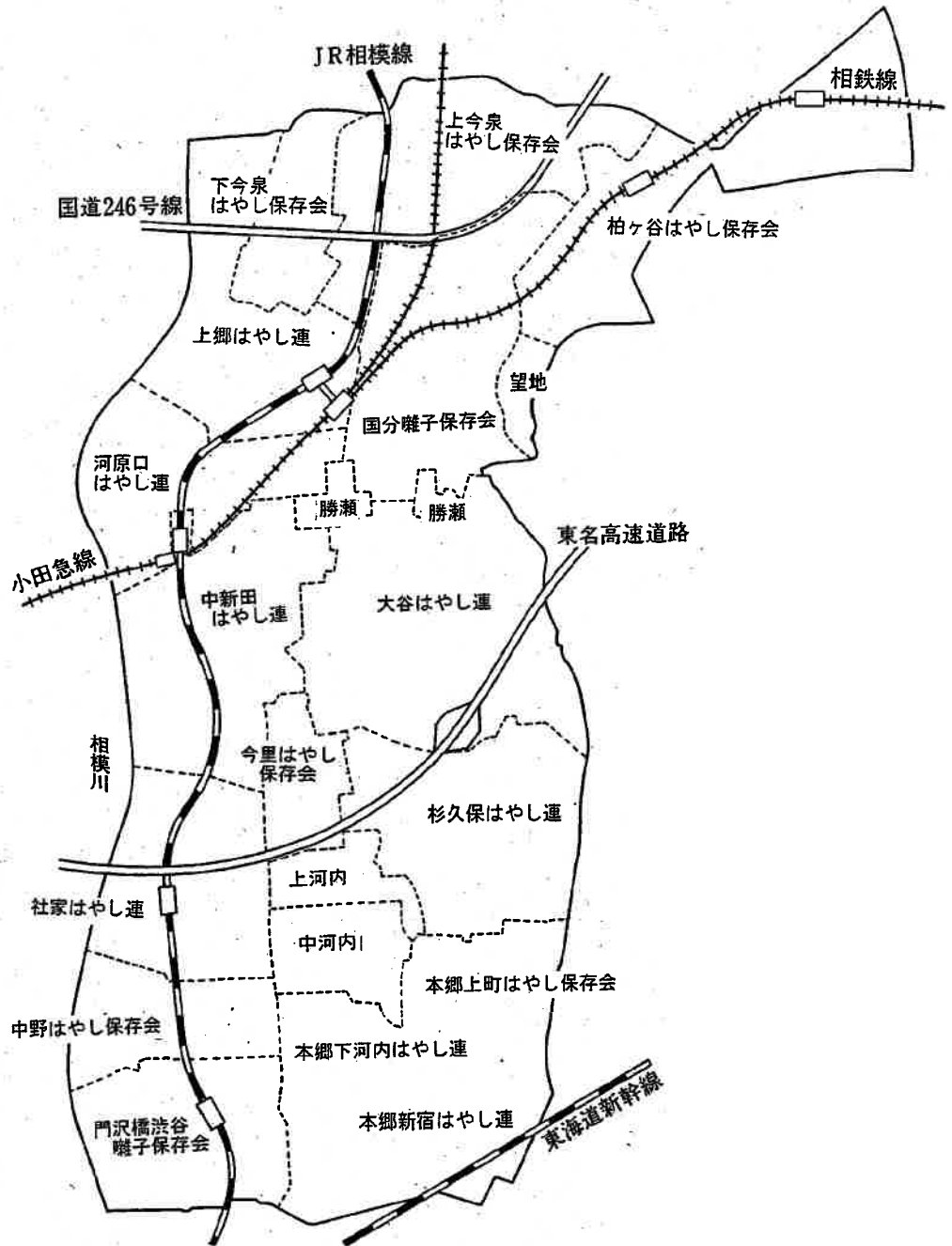
海老名市はやし保存連絡協議会



目 次

1. 柏ヶ谷はやし保存会
2. 上今泉はやし保存会
3. 国分囃子保存会
4. 大谷はやし連
5. 下今泉はやし保存会
6. 上郷はやし連
7. 河原口はやし連
8. 中新田はやし連
9. 杉久保はやし連
10. 本郷下河内はやし連
11. 本郷新宿はやし連
12. 本郷上町はやし保存会
13. 今里はやし保存会
14. 社家はやし連
15. 中野はやし保存会
16. 門沢橋渋谷囃子保存会

保存会地区別案内





## 海老名のお囃子

現在、海老名市には16の保存会が存在しますが、本市のどこに最も古く伝来したかは記録や伝承が正確に伝えられていないため定かではありません。

しかし、明治時代に既に行われていた地区は、今里、大谷、門沢橋、上郷、国分、下今泉、社家、杉久保、中野、本郷新宿の10ヶ所であることが残された資料などから伝えられています。

また、柏ヶ谷では、昭和2年に当時の綾瀬村寺尾から師匠を招き、団員25名によって、はやし連が結成された記録があります。

いずれにしても戦前まではどこにも腕自慢の青年がいて、地区内外の祭礼で自慢の腕を競うなど、農村の祭りを盛り上げる音色として、盛んに演奏されていたことが伺えます。

また、どの地区でも太平洋戦争によって中断されてしまい、戦後の復興と供に少しずつ囃子の音色も村々に戻り、昭和50年代に入ると各地区で保存会として復活を遂げるとともに、「海老名市はやし保存連絡協議会」通称「はやし連」が設立し、各保存会の保存伝承活動を互いに支えあい、情報交換をし、「たたき初め」「えびなふるさとまつり」などでは、加盟する保存会のほとんどが一堂に会する等の活動は他に類を見ません。

はやし連のお囃子の分類は大きく分けて2種に分けられます。

「下町囃子系」は、市北部、大谷を除く旧海老名村中心で、柏ヶ谷、上今泉、河原口、国分、下今泉、中新田のもので、大和や綾瀬方面との関連が深いとされます。

「新囃子系」は、主に南部、大谷と旧有馬村中心。茅ヶ崎、平塚方面、特に平塚の田村囃子との関連があるといわれています。

世相の変化と供に、囃子を取り巻く状況も変わっています。地区の血気盛んな青年たちが中心であった叩き手も、現在は小・中学生中心となり、彼らも日々の精進によって当時と変わらぬ腕前を披露しています。

しかし、地域性が希薄になりつつある昨今、囃子の伝承は容易ではありません。21世紀を迎えた今、末永くこの素晴らしい郷土芸能を伝えていきたいという願いを込めてこのガイドブックを作成しました。

どうぞ、あなたのまちのお囃子の音色に耳を傾けて下さい。

なお、各保存会の活動状況については、単位保存会及び関係者の皆さまのご協力によって回答いただきました。内容はほぼ原文のまま掲載しています。また、上記のはやしの歴史の部分については、「海老名市史 民俗編」から引用させていただきました。

「お囃子をやってみたい」という方は、このガイドブックを参考に、ぜひお近くの保存会の練習をのぞいてみてください。お待ちしております！

平成14年1月27日

はやし連会員一同



# 柏ヶ谷はやし保存会

設立年月日

昭和2年

練習日・場所

不定期 (行事の一ヶ月前などに集中して練習します。)

会 員

小・中・高校生 10人

大人 10人

地域での活動

- ①神社祭礼
- ②柏ヶ谷ふるさとまつり

曲 目

下町囃子  
岡崎  
ねんねこ  
教え唄



歴 史

昭和2年に海老名村青年団柏ヶ谷支部、支部長山崎千代吉氏以下25名が綾瀬村寺尾の早川啓助、近藤昇作両氏を師匠として柏ヶ谷はやし連を結成した。

綾瀬市寺尾のはやし連は徳川中期の頃より始まり、明治から昭和へと続いた伝統あるものと聞く。

太平洋戦争により中断してしまい、終戦後何度となく復活したが、2・3年で途切れてしまっていた。

昭和50年になって、地区の会合でたまたま囃子の話が持ち上がり、夏祭りにはぜひたたくと誰もが一決し、先輩の方々と相談してはやし連復活を申し合わせた。同年8月の神社祭礼で披露し、氏子の方から拍手をいただき、祭を盛り上げた。

このことを受けて、10月には土屋勇氏らの発案で保存会を正式に結成した。その後、週3回の厳しい日程で練習を行い、翌年5月柏ヶ谷小学校体育館において、盛大に披露会を開催した。



# 上今泉はやし保存会

設立年月日

不明

練習日・場所

毎月2回 午後7時～午後9時  
上今泉コミセン

会 員

小・中・高校生 6人  
大人 13人  
指導者 1人

地域での活動

①弥生神社祭礼	4月	弥生神社
②慶泉・さくらい幼稚園夏祭り	7月	さくらい幼稚園園庭
③上今泉6丁目盆踊り	7月	上今泉第2児童公園
④上今泉盆踊り	8月	

曲 目

岡崎  
本ばやし  
子守歌  
鎌倉  
かぞえ唄

ひと言PR

「現在会員募集中です上今泉の住民なら誰でもOKです。  
ぜひ一緒におはやしを伝承していきましょう！」





# 国分囃子保存会

## 設立年月日

明治20年頃

## 練習日・場所

毎月1日・15日 午後7時～午後9時

国分自治会館（国分緑苑自治会館）

※ふるさとまつりやたたき初め大会の前一週間2、3日時間をとって集中練習します！

## 会 員

小・中・高校生 4人

大人 25人（うち指導者3人、世話人2人）

## 地域での活動

①弥生神社祭礼 4月 弥生神社

②国分寺祭り 10月 国分寺

## 曲 目

屋台のぶっつけ：音楽で言えば前奏の部分

いち上がり：比較的元気が良いたたき方

岡崎：リズムカルなたたき方で踊りも入る

鎌倉：物静かなたたき方

四丁目しちようめ：強弱のはっきりしたたたき方

大切りおおきり：お囃子の終了を表す曲

国分地区とその周辺地区は下町囃子という名称のたたき方で、強弱がはっきりしていて、静かなたたき方です。

## 歴 史

先輩の会員によると、明治の中頃から始まったと聞いています。

昔は男子のみのお囃子で青年団が中心になってたたいていましたが、現在は老若男女一緒になってたたいています。

## ひと言PR

「地域住民とお囃子がとけあうことが、地域文化の保存につながると思っていますので、これからも地域文化の育成に努めていきたいと思えます。」



# 大谷はやし連

## 設立年月日

嘉永4年(1850年)  
大谷芸能保存会のはやし連部に属する

## 練習日・場所

毎週 土曜日 午後7時～午後9時  
大谷八幡宮社務所

## 会 員

小・中・高校生 25人  
大人 8人  
指導者 4人  
世話人 8人

## 地域での活動

①新明社祭礼 4月 大谷神明社  
②八幡宮祭礼 10月 大谷八幡宮

## 曲 目

屋台ばやし : 基本になるたたき方  
正 殿 : ゆっくりと間合いのあるたたき方  
かんだまり(る) : 強弱の兼ね合いと、うまみを聞かせるたたき方  
鎌倉しちょうの四丁目 : ゆっくりと間合いのあるたたき方  
四丁目 : たたき方の違う合いの手との呼吸の合いを聞かせるたたき方

## 歴 史

神社の氏子青年の集まりによる太鼓の練習と演奏であったと伝えられている。(下大谷若衆連世話役衆)





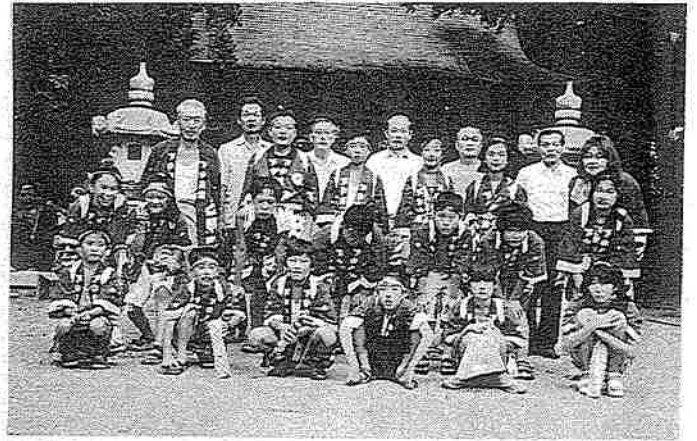
# 下今泉はやし保存会

## 設立年月日

昭和54年  
下今泉自治会に属する

## 練習日・場所

毎年6月～7月  
(1日おきに15回程度)  
行事の前1～3回程度  
浅間大神神楽殿



## 会 員

小学生	19人
大人	24人
指導者	8人
世話人	16人

## 地域での活動

①浅間大神祭礼	8月1日	浅間大神境内
②下今泉盆踊り	8月第2土曜日	〃
③日立納涼祭	8月下旬金曜日	日立海老名工場

## 曲 目

### 演奏の特色 起源

屋 台 : 乗り物にて神霊を送迎する調べ  
岡 崎 : おかめ、ひょっとこ、獅子舞などが舞われる時の調べ  
トーハイ : はやしが終了するときの調べ  
「海老名市史9民俗」によると「太鼓勸化帳」に安政2(1855)年  
「笛1、大太鼓1、附太鼓1組、摺鉦1代金3両2朱也」とあります。  
地元、伊波秀雄氏によると、下今泉のはやしは座間市の皆原から伝え  
られたもので、下町囃子で、特徴ははやしの中心となる「屋台」のテ  
ンボが割合遅く、小太鼓4張が先(高音2張)と後(低音2張)に分  
かれ、それぞれのたたき方と音が異なり、その音の調和(からみ)に  
よって独特の味を出しています。

## 歴 史

昭和54年に地元の高柳春義氏より大太鼓1張、小太鼓4張が寄贈  
され、伊波徳治氏が発起人となって「下今泉はやし保存会」が発会し  
た。保存会の運営が困難になったため、平成2年から下今泉自治会に  
組織の主体が移管され、現在に至っている。

## ひと言PR

小学校3年生から6年生の子どもたちが大太鼓1、小太鼓4、摺鉦1  
に分かれ演奏していて、曲中で一巡ずつ交代して演奏しています。写  
真は8月1日祭礼の町内パレードです。



# 河原口はやし連

## 設立年月日

昭和59年  
河原口自治会の部会

## 練習日・場所

4月～7月 毎週 月・水・金 (青年部活動 毎月曜日)  
各行事の前 5～6回  
河原口自治会館

## 会 員

小・中・高・大学生	37人
大人	28人
指導者	5人
世話人 (相談役)	25人

## 地域での活動

①元旦祭	1月1日	有鹿神社
②神武社祭礼	4月第1日曜日	神武社境内
③盆踊り大会	8月中旬	児童館
④有鹿神社祭礼	7月第2土日	有鹿神社

## 曲 目

### 演奏の特色 起源

鎌倉 : 静かな曲で山車が休んでいるときなどに用いられる  
 仕丁目 : 霊入れの曲で技がもっとも難しく力強い。獅子舞  
 屋台囃子 : もっとも速い曲で軽快で力強い。獅子舞に用いる  
 岡崎 (仁羽) : リズミカルな曲でひょっこ、道化の踊りに用いる  
 子守歌 : 獅子を寝かしつける曲  
 祇園流 : 東京青梅市に祇園囃子を継承する団体の曲の一部  
 すずめ踊り : 二拍子の軽快な踊りの曲、仙台市の青葉祭りで踊られる曲

隣地区の上郷はやし連より、「鎌倉・仕丁目・屋台」の指導をうけた。後に市内外の祭礼を見学し、メンバーを増やし、さらに獅子舞や神楽舞などを習得しました。青年部と共に技術の向上に努めています。

## 歴 史

昭和57年に当時の田口自治会長の熱心な要請により、河原口はやし連設立委員会が発足し、多くの方の賛同を得て昭和59年4月に河原口はやし連が設立。平成3年に後援会が発足しさらに発展しました。

## ひと言PR

恒例行事の他に市内外の様々なイベントにも積極的に参加しています。平成12年に青年部「翔鷹」結成。古典のはやしを継承しつつ現代的な曲にも挑戦しています！





# 中新田はやし連

設立年月日

昭和54年

練習日・場所

ふるさとまつりなどの2ヶ月前  
毎週土曜日 午後7時～午後9時  
他ボランティア公演等に備えて前2週間  
中新田コミセン等

会 員

小・中・高	2.0人
大人	7人
指導者	5人
世話人	7～8人 (主に子どもたちの保護者)



地域での活動

①諏訪神社祭礼	7月第3日曜日	諏訪神社
②盆踊り大会	8月第1日曜日	中新田小学校校庭

曲 目  
演奏の特色  
起源

岡 崎 時として、おかめ、ひょっこ踊りを入れる  
屋 台  
四丁目  
鎌 倉  
大 切

※昭和53年、国分はやし保存会から指導を受けて伝授された。

歴 史

中新田の鎮守様諏訪神社の祭礼はそれまで極めて静かな祭礼だった。お祭り騒ぎと言われるが何とか賑やかにしたいものと考え、我々祭り好きの有志4～5人が独走して発足した。当初は「いつまで続くのか」等と批判非難を受けたが、引き続き御輿の有志の会が発足し、今日では人口増とも相俟って、盛大な祭りに発展し、喜ばれている。

ひと言PR

祭り行事が終了する秋の時期に反省会と慰労を兼ねて親子ともどもの食事会やバーベキュー大会を開催し、相互の親睦を深めています。年末には、大人だけの忘年会を開催しています。来年は母親代表が幹事となり、キャンプ等親子で楽しめる行事を計画しています。



# 杉久保はやし連

設立年月日

昭和40年頃

練習日・場所

毎週 土曜日 午後7時～午後9時  
8・12・1月はお休み  
豊受神社境内

会 員

小・中・高	15人
大人	6人
指導者	6人
世話人	3人

地域での活動

①盆踊り	8月上旬	豊受神社
②豊受神社祭礼	10月	〃
③たたき初め	元旦	〃

曲 目  
演奏の特色  
起源

カワチガイ  
ランビョウシ  
キザミ  
キリ(終了時)

歴 史

昭和40年頃、当時の青年団により復活。その後昭和55年から子どもたちへの指導を始め、現在に至る。

ひと言PR

練習や行事への参加の他に、バス旅行やクリスマス会(1月)、新年会(1月)など楽しいイベントも開催しています。



# 本郷下河内はやし連

## 設立年月日

昭和51年頃復活（海西中学校開催の第2回えびなふるさとまつりより参加）  
本郷下河内町内会に属する

## 練習日・場所

毎週 水曜日 午後7時30分～午後9時  
下河内公民館

## 会 員

小・中・高 18人  
大人 19人  
指導者 5人  
世話人 3人

## 地域での活動

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| ①本郷神社祭礼  | 4月第1日曜日 | 本郷神社 他   |
| ②自治会夏祭   | 8月初旬    | 本郷神社境内   |
| ③町内盆踊り大会 | 〃       | まるま倉庫敷地  |
| ④有馬愛郷祭   | 8月下旬    | 有馬地区各小学校 |

## 曲 目

<sup>かんだまり</sup>神田丸 : 神霊が宮に入ったので神宮が挨拶する調べ  
<sup>やだいばやし</sup>屋台囃子 : 神霊を送迎する調べ  
<sup>しちよーめ</sup>仕丁目 : 行事が終わり神宮が浮かれながら帰る調べ  
 宮昇殿 : 神霊が宮に近づいたことを知らせる調べ  
 昇 殿 : 神霊がいよいよ宮にはいることを知らせる調べ  
 唐楽鎌倉 : 安泰を祝い神宮が余興楽として行う調べ  
 印 場 : 一切が終わり下男、おかめ、ひよっところが鉢洗いをする調べ

平塚市田村地区にある田村雑子の流れをくみ、親太鼓1、締太鼓2、笛、鉦の構成を基本として、屋台囃子、宮昇殿、昇殿、神田丸、唐楽鎌倉、仕丁目、印場の7つの調べから構成されています。

} 本日の  
曲 目

## 演奏の特色 起源

## 歴 史

戦前は青年団を中心に盛んに行われていましたが、終戦後は一時途絶えてしまいました。昭和51年頃町内盆踊りで3人の先輩が叩いたことがきっかけとなり、有志が集まり先輩の指導を受けて復活、現在に受け継がれています。

## ひと言PR

8月下旬には恒例となった親子キャンプを山梨県道志村ややくら沢キャンプ場で実施、12月には親子でミカン作り、12月中旬に1年間の慰労として子どもと関係者による納会を公民館で実施。また年1回の親子親睦旅行など 様々な行事をとあして親睦を深めています。



# 上郷はやし連

設立年月日

昭和50年

練習日・場所

毎週 金曜日 午後7時～9時  
ふるさとまつり、たたき初めの1ヶ月前から週2回練習しています。  
上郷自治会館

会 員

小学生	10人
大人	15人
指導者	5人
世話人	2人

地域での活動

①さくらまつり	4月第1日曜日
②有鹿神社祭礼	7月第2日曜日
③上郷地区盆踊り	8月第2週

曲 目

かまくら  
しちょうまい  
おかざき

※下町ばやし系

歴 史

現在の保存会が組織される以前にも、明治時代頃から演奏されていたようです。





# 本郷新宿はやし連

## 設立年月日

明治6年  
新宿町内会

## 練習日・場所

毎週 土曜日 午後7時～午後9時  
新宿公民館

## 会 員

小・中・高 6人  
大人 3人 (町内有志はいつでも参加自由)  
指導者 2人  
世話人 3人

## 地域での活動

- |           |         |          |
|-----------|---------|----------|
| ①本郷神社祭礼   | 4月第1日曜日 | 本郷神社 他   |
| ②自治会盆踊り   | 8月第2日曜日 | 本郷荘      |
| ③新宿不動講    | 9月第1日曜日 |          |
| ④新宿新年会    | 1月第2日曜日 | 町内公民館    |
| ⑤ゼロックス夏祭り | 8月第1土曜日 | ゼロックス敷地内 |

## 曲 目

屋台ばやし：玉、乱拍子、刻み  
録 倉：弛張面  
昇 殿：かんだまり  
馬鹿ばやし  
宮昇殿

## 演奏の特色 起源

大太鼓1、小太鼓2、横笛1、摺鉦1の構成でバラエティに富み祭りを盛り上げています。

明治6年、今の茅ヶ崎柳島へ新宿の若い衆6人が弁当を持って早朝に家を出て、歩いて太鼓を習いに通って7日間の練習が終わると、忘れないうちに町内の若い衆を集め猛練習をさせて習得したのが今の新宿のはやしの起源です。

## 歴 史

新宿の通りは昔から大山詣で賑やかでした。新宿の青年団たちは、藤沢市用田方面から白装束、草鞋履きで金剛杖を持った参詣人の人々を歓迎する意味で、農家の庭を借りて盆踊りやいなか芝居を計画し、すばらしい夏祭りが行われていたそうです。

新宿には昔から総ヶヤキづくりの山車があり、それに太鼓のをせてみんなで大綱を使って大山街道を引っ張り、太鼓を叩きながら歩きました。また各家の前に祭りの提灯を飾り、夏祭りを盛り上げました。

お隣の用田村にある神社の祭礼時には、神輿の町内での渡御が終わると、必ず目久尻川の方へ神輿がやってきて、橋のたもとから神輿が川に入りしばらく練り歩いた後、新宿地区の土地で一休みしてもらい、そこへ新宿町内の地区役員が招待され、お祝いの宴がしばらく行われていました。

その後新宿のおはやし連が太鼓を叩いて用田まで送ったものです。用田に到着するとはやし連にたくさんのごちそうをいただき、さらにおみやげまでもらって帰ってきたものでした。

ちょっと昔の古き良き時代のお話です。

(地元 古郡有正氏 談)



# 本郷上町はやし保存会

設立年月日

大正時代頃より始まる

練習日・場所

毎週 金曜日  
上町公民館

午後7時～午後8時

会 員

小・中・高  
大人  
指導者  
世話人

25人  
人  
3人  
2人

町内会全員が会員

地域での活動

- ①本郷神社祭礼
- ②自治会夏祭
- ③ゼロックス夏祭り
- ④有馬愛郷祭

4月第1日曜日  
8月第2日曜日  
8月第2金曜日  
8月下旬

本郷神社 他  
ゼロックス敷地内  
有馬地区各小学校

曲 目

祭りばやし  
カマクラ  
仕丁目  
宮昇殿  
(昇殿)  
神田丸  
バカばやし

演奏の特色  
起源

上町はやしは、設立当初は村内の新宿より指導を受けて現在に至ったと言われています。

近年になって笛は市内大谷の先生から指導を受け4年生以上は誰でも吹けるようになりました。

歴 史

設立当時は青年の方が主体で戦前まで受け継がれてきましたが、戦争を境に中断され、その後市内でも各地で囃子の気運が高まり、昭和57年我が町内でも再び設立され、現在に至っています。

ひと言PR

140軒ほどの小さな町内ですが、現在25名もの小学生が、年間をとおして毎週金曜日に練習しております。



# 今里囃子保存会

設立年月日

昭和50年代（古くからあったようですがいつ頃からは不明）

練習日・場所

地元祭礼、ふるさとまつり、叩き初めの1ヶ月くらい前から  
今里公民館

会 員

小・中・高 10人  
大人 8人（うち、指導者4、世話人4）

地域での活動

①正八幡宮祭礼 4月20日前後の日曜日 正八幡宮及び  
町内廻り

曲 目

かわちがえ  
玉 1.2.3  
昇殿（現在はほとんど演奏しない）  
鎌倉（ ” ” ）

歴 史

昭和50年くらいに3名の大人公民館にて夜練習を受け、子どもたちに伝えました。  
当時は子どもが多く、子供会等からも加入がり盛んでした。  
現在は、子供たちに時間がないのと、高学年になり部活動などで残念ながらやめてしまいます。



# 社家はやし連

## 設立年月日

昭和50年 復興  
自主的に活動している団体です。

## 練習日・場所

毎週 月・木曜日 午後7時～午後8時30分  
三島社社務所

## 会 員

小・中・高 13人  
大人 11人 (内、指導者6人)  
世話人 2人

## 地域での活動

- ①三島社 (神社) 春祭 毎年4月第4日曜日 三島社境内
- ②不動尊祭り 毎年7月28日
- ③盆踊り 毎年8月中旬

## 曲 目

昇 殿：基本となる曲目で太鼓の全ての要素が含まれています。  
鎌 倉：正確なバチさばきを必要とする難度の高い曲  
屋 台：鉦と笛が入り止めずに演奏を続けられる華やかな曲です。







# 中野囃子保存会

設立年月日

昭和49年

練習日・場所

毎週 土曜日 午後7時30分～午後9時30分  
中野自治会館

会 員

小・中・高 25人  
大人 4人  
指導者 2人

地域での活動

- ①中野八幡宮祭礼 毎年4月第2日曜日 八幡宮境内
- ②盆踊り 毎年8月第2金・土曜日 中野地区
- ③有馬愛郷祭り 毎年8月最終土曜日 有馬地区各小学校

曲 目

屋台囃  
鎌倉  
四丁目  
昇殿

※平塚の神田囃子の系列と伝えられています。

歴 史

中野公民館が火事に遭ってしまい、太鼓もなくなってしまいました。その後昭和48年に自治会と八幡宮の協力のもとに新調し、消防団を中心に保存会を結成し、現在に至っています。





# 門沢橋渋谷囃子保存会

## 設立年月日

昭和50年 発足

## 練習日・場所

毎年 4月～8月にかけて練習します  
渋谷神社、いこいの場

## 会 員

小・中・高	20人
大人	10人
指導者	5人
世話人	5人

## 地域での活動

渋谷神社祭礼、盆踊り 毎年7月第3日曜日 渋谷神社

## 曲 目

昇 殿  
録 倉  
屋台囃子

## 演奏の特色 起源

明治初期、神輿の修復とともに発祥した。大正時代には屋台車があったが、地震で破損、伝来は寒川神社の露払いとして浜降祭に参加していたのを見ると、寒川からと思われる。

## 歴 史

昭和50年に発足、54年より現在の会員となる

## ひと言 P R

過去に県央はやし大会、県民俗芸能大会、関東はやし大会に出場しました。また、東京芸術大学の調査の対象にもなりました。

スツツクツクトスツツクツトロツクツ



国分

ヒヤラヒヤラ



杉久保

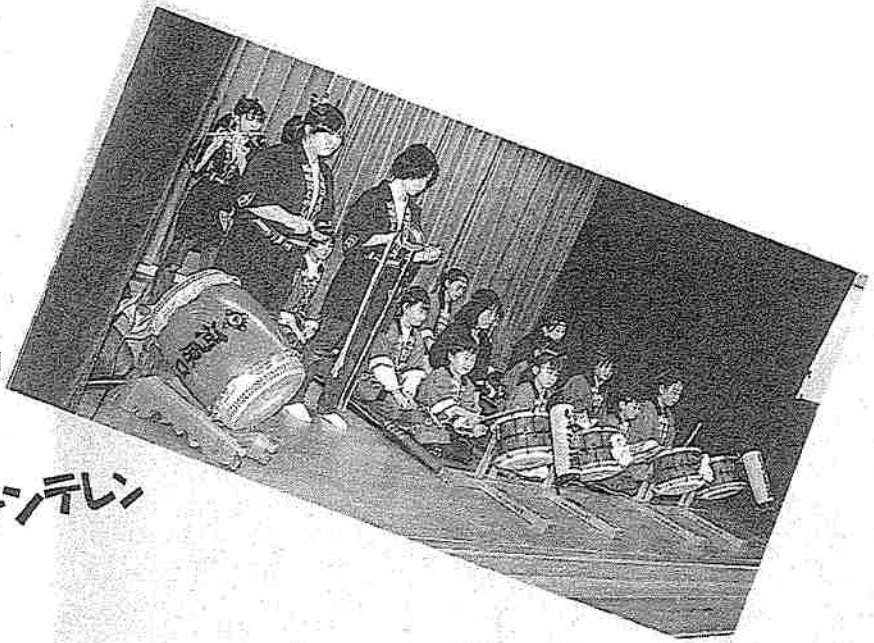
ドンツクツ

テケテンテンシゲテンテカシッテン



本郷上町

河原口



テンカレテンカテンレン

心浮き立つ音色を届けます...



門沢橋

ピッポー



本郷下河内

## 市内不動明王像等の調査について

### 調査目的等：

市内の不動明王像についてまとめ、温故館で展示紹介するため、市史編さん時に行った仏像調査資料をもとに寺院所蔵の不動明王像の現状を確認し、写真撮影を行う。市域全体の不動明王像を把握するとともに、国分寺所蔵の不動明王坐像について文化財指定を進めるための調査としたい。

市域の不動明王像については、大山不動の影響を受けたとみられるものも多く、不動講の資料についても可能な範囲で調査確認する。

### 対象：

以下の寺院等から状況に応じ、調査を行う。

常泉院、正覚寺、龍峰寺、妙泉寺、大谷観音堂、吉祥寺、本覚寺、金剛寺、寿閑寺、三島社、国分寺、総寺院

### 時期：

調査については令和6年3月から開始、適宜実施

展示等については調査の進捗に合わせて令和6年度後半、または令和7年度に実施

### 指導：

調査にあたっては市文化財保護審議会 山本勉委員、県立歴史博物館 神野祐太学芸員に指導協力を仰ぐこととしたい。

## 令和5年度 文化財保護・活用事業実施結果

### 【温故館維持管理経費】

#### ○企画展「えびな近代鉄道物語」

R5. 3. 28～6. 25 来館者 4,552名

海老名駅北口開設などにあわせ、鉄道関係資料を公開した。

・FMヨコハマ (FM84.7MHz) 「Lovely Day」 に出演

#### ○ロマンスカーミュージアムでのミニ展示

R5. 5. 24～8. 28 (8/11 夏休みイベント参加)

#### ○資料展「震災の記憶 ～関東大震災から100年～」

R5. 7. 28～10. 1 来館者 2,465名

関東大震災から100周年を迎えるにあたり、海老名の被害状況についての写真等を展示した。

※神奈川県博物館協会「神奈川震災100年プロジェクト」参加

#### ○企画展「海老名に伝わる銅鐘 ～国分寺銅鐘重要文化財指定100周年記念～」

R5. 11. 25～R6. 2. 25 来館者 3,169名

大正12(1923)年に国分寺所有の銅鐘が国重要文化財に指定されてから、令和5(2023)年で100周年を迎えたことを記念し、展示を行った。

○展示資料貸出 神奈川県教育委員会、福祉政策課

○維持管理 空調修理、エレベーター修理

○改修工事 館内照明・展示ケース照明LED化

○寄贈資料 不動講道具一式



えびな近代鉄道物語展示解説の様子

### 【歴史資料収蔵館維持管理経費】

#### ○ミニ収蔵品展「大正から昭和初期の双六」

R6. 1. 27～R6. 3. 31

清水登美子家資料の双六のうち、大正から昭和のものについて展示、ホームページで公開した。

#### ○寄贈資料

書籍、軍事郵便ほか

○維持管理 屋上柵修理

#### ○資料整理

清水家資料、切図(旧公図)写真など

○その他 写真資料の展示



清水登美子家寄贈資料 大正少年双六(大正4年)

### 【文化財保護事業費等】

#### ○市指定重要文化財などへの助成支援等

市指定重要文化財補助金(有形文化財等20件、無形民俗文化財1件計600千円)

はやし保存連絡協議会への補助金(150千円)

#### ○市文化財保護審議会

R5. 6. 20 市登録有形文化財・県指定天然記念物にかかる保存修理について ほか

R6. 3. 18 市登録文化財登録について ほか

○R5. 8. 7 国登録有形文化財登録

「海老名市温故館(旧海老名村役場)」官報に告示

○文化財防火デー

R6. 1. 17 嶋崎家住宅

R6. 1. 24 豊受大神

○文化財調査

三日月井戸・独鈷井戸、無形民俗文化財(お囃子)、仏像彫刻

○スライド資料デジタル化

史跡秋葉山古墳群発掘調査スライド等約 1800 点

○市登録文化財「高札」保存修理

R5. 8. 15~R6. 3. 31 慶応2年、国分村高札

○本郷道祖神移設

開発行為に伴い、本郷本宿にあった道祖神及び宝篋印塔  
残欠等を有馬のはるにれ敷地内へ移設

○史跡等の維持管理

史跡相模国分寺跡・史跡相模国分尼寺跡・史跡秋葉山  
古墳群・今福薬医門・浅井の水等の草刈、樹木剪定/  
有馬のはるにれ等害虫駆除/海老名の大櫓維持管理/  
秋葉山古墳群枯損木伐採・土留め塀修理/相模国分寺  
跡手すり設置など

○天然記念物保存修理

海老名の大櫓：土留修理

有馬のはるにれ：剪定、建仁寺垣交換など

○ふるさと文化財ボランティア

今福薬医門公園のボランティア清掃



豊受大神 放水訓練



有馬のはるにれ 剪定状況



海老名の大櫓土留修理状況

## 【文化財活用事業費等】

○えびな文化財探求舎体験講座

①石器づくり R5. 8. 1 参加者：23 名

②勾玉・瓦づくり R5. 8. 2~3 参加者：125 名 ※かながわ考古学財団との連携

○相模国分寺跡復元アプリ「相模国分寺 360」の活用

○相模国分寺跡あそびのひろば

4、5、6、10、11、12、3月の7回開催

相模国分寺跡 参加者約 300 名~500 名

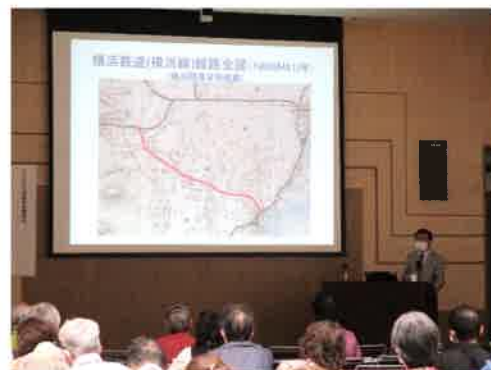
その他平日に不定期開催

○文化財講演会

「近代の海老名周辺における鉄道敷設と沿線開発」

浜田 弘明氏 (桜美林大学教授、海老名市文化財保護  
審議会会長)

R5. 5. 21 海老名市役所 4 階 参加者 66 名



講演会の様子

○文化財案内板等整備

鈴木三太夫案内板板面交換、郷土かるた標柱建替、  
自然と歴史の文化財案内板板面交換

○文化財ガイド（海老名ガイド協会に委託）

- ・厚木駅周辺の廃駅・廃線と関東大震災遺構を訪ねる

R5. 6. 17 参加者 44 名

—海老名の大地の古墳と遺跡をめぐる—

- ・「上浜田古墳群と周辺の史跡・寺院をめぐる」

R5. 10. 7 参加者 18 名

- ・「秋葉山古墳群と周辺の史跡・寺院をめぐる」

R5. 12. 2 参加者 24 名

- ・「伊勢山古墳群と周辺の遺跡・神社をめぐる」

R6. 2. 17 参加者 26 名

○温故館たてもの見学会

R5. 11. 3～11. 5 リーフレット作成

○郷土芸能の公開

- ・えびな郷土芸能際

R5. 10. 21 参加・来場約 300 名

出演：今里はやし保存会、海老名東柏太鼓、  
海老名ささら踊り保存会、大谷歌舞伎

- ・新春はやし叩き初め大会開催

R6. 1. 28 参加・来場約 600 名

- ・ささら踊りの出前授業、相模ささら踊り大会出演

○文化財収蔵庫維持管理 空調修理

○櫛ロータリークラブ

- ・海老名の大櫛下草刈りボランティア

「大櫛の DNA 挿木ストラップ」の寄贈

○その他

文化財ガイド養成講座（海老名ガイド協会と共催）



文化財ガイド(4回目)の様子



えびな郷土芸能祭の様子



新春はやし叩き初め大会の様子

## 【埋蔵文化財調査事業費】

○開発工事等の前の試掘等調査 11 件

（国分尼寺北方遺跡、相模国分寺跡・国分宿遺跡、  
大谷吉久保遺跡、柏ヶ谷瀧ノ本遺跡、上今泉中原遺跡、  
大谷下浜田遺跡）

○個人住宅建築に伴う発掘調査 3 件

（相模国分寺跡・国分宿遺跡、大谷市場遺跡、  
国分尼寺北方遺跡）



相模国分寺跡・国分宿遺跡  
溝状遺構発掘調査状況



## 【相模国分寺跡整備事業費】

### ○史跡相模国分寺跡用地買収

史跡相模国分寺跡北側寺院地用地買収、損失補償

- ・地番：海老名市国分南一丁目 1895 番 2
- ・面積：424.84 m<sup>2</sup>

### ○史跡相模国分寺跡用地測量委託

- ・買収用地測量・分筆登記
- ・史跡地管理のための座標変換

### ○史跡相模国分寺跡歴史公園公園台帳作成業務

都市公園法に基づく公園台帳を整えるため



## 【相模国分尼寺跡整備事業費】

### ○史跡相模国分尼寺跡用地買収

史跡相模国分寺跡講堂東側用地買収、損失補償、登記

- ・地番：海老名市国分北二丁目 3095 番 1
- ・面積：650.73 m<sup>2</sup>

### ○史跡相模国分尼寺跡整地等工事

ネットフェンス撤去、防草シート設置

